

スポーツ観光マイスター制度

設置趣旨

世界的・全国的に活躍するスポーツ選手（元選手）を「スポーツ観光マイスター」として任命し、あらゆる機会を利用してスポーツを核とした国内旅行及び訪日旅行をPRしていただくことによりマイスターの世界的・全国的な知名度を活かした観光魅力を発信し、スポーツ観光推進の一層の機運醸成を図る。

現在のマイスター



寺田陽次郎（ル・マン）

ル・マン24現役最多出場記録を持ち、唯一の外国人理事を務める。モータースポーツの盛んなヨーロッパでの抜群の知名度を活かしての訪日観光PRを期待



フィリップ=トルシエ（サッカー）

元日本代表監督で現在はF C琉球の総監督。サッカーの盛んな地域への知名度を活かして沖縄を中心とした日本の魅力PR及び国際大会誘致を期待。



小原工（トライアスロン）

アジア大会5回優勝で、シドニーオリンピックにも出場した実績をもつ。米子市観光協会に所属し、D oスポーツの観点からスポーツ観光を推進している。



朝日健太郎（ビーチバレー）

男子バレー日本代表として活躍し、ビーチバレーでは北京オリンピックに出場、日本ビーチバレー男子史上初の勝利を挙げる。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。



浦田聖子（ビーチバレー）

ビーチバレーでワールドツアー入賞、アジア大会に出場など日本女子のトップ選手として活躍。日本の貴重な観光資源であるビーチを守る活動も推進中。



篠宮龍三（フリーダイビング）

フリーダイビングの国内唯一のプロ選手として国際大会で活躍。アジア記録（世界4位）である115mの記録を持つ。沖縄でのスクール活動や海洋保護等を訴えるプロジェクト活動も推進している。



塚原光男（体操競技）

オリンピック3大会で5個の金メダルを獲得。跳馬で「ツカハラ跳び」、鉄棒では「月面宙返り」を開発。世界的な知名度を活かしての訪日観光PRを期待。



荻原健司（スキー）

元スキー競技者。元経産大臣政務官。ノルディック競技の中心選手として活躍し、1992年・1994年の冬季オリンピック2大会連続で金メダルを受賞。現役時代の活躍から、「キング・オブ・スキー」の異名を取る。